



愛川ふれあいの村 9月の風景

## 平成29年9月 自然のたより

日に日に涼しくなる9月。半袖で活動していると肌寒さを感じます。虫たちにとって寒さは大敵、活動が鈍ってしまいます。人も虫も同じですね。そして、村では秋の食材が育っています。ギンナン・カキ・クリなど。たわわに実ったそれらは香りや味で動物や鳥、虫、人を楽しませてくれることでしょう。



ヒガンバナ



葉っぱに顔（虫食いの跡）



キリギリス



クズ



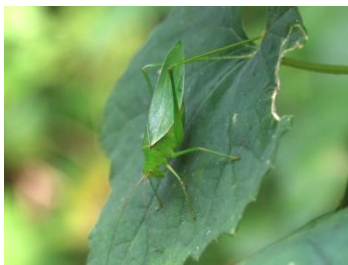
仔モガ せりところ



コカマキリ



ススキ



サトクダマキモドキ



ヤマボウシ



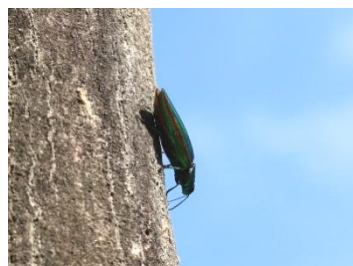
キイロスズメバチ



ガガイモ



カラスアゲハ



ヤマトタマムシ



ミヤマアカネ



ゲンノショウコ



## ◆秋の七草◆

9月のこの時期、たくさんの野の花が見頃を迎えます。万葉集の歌人、山上憶良はこの時期に咲き乱れる花の様子を歌二首に詠んでいます。

秋の野に 咲きたる花を 指折りかき 数ふれば 七種の花  
萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝顔の花

この二首より『秋の七草（ハギ、オバナ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ\*）』が選定されたと言われています。

このうち、「フジバカマ」「キキョウ」は絶滅が心配され「ナデシコ」「オミナエシ」も減少の一途をたどっており、このまま放っておくと六草、五草…と減っていつてしまうかもしれません。

愛川ふれあいの村では、「ハギ」「オバナ（ススキ）」「クズ」の他、絶滅危惧に指定されている「キキョウ」も見ることができます。

山上憶良が伝えた秋の七草をこれからの未来にもずっと絶えることなく見続けて行ける、そんな将来を願います。たまには歩みを止めて野の花に目を向けてみてはいかがでしょうか。（梅本）

\*「朝顔」は諸説あり、現在の「アサガオ」は万葉の時代にはまだ日本に持ち込まれておらず、ここで読まれている「朝顔」は「キキョウ」という説が有力です。



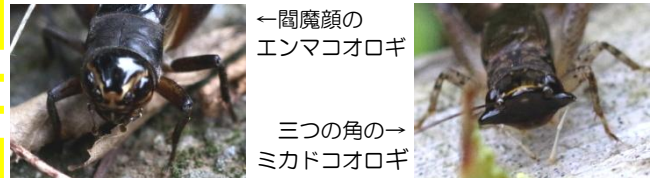
クズ



キキョウ

## ▼顔▼

虫の顔をまじまじと見たことがありますか。ではコオロギの顔を見てみましょう。まずは写真を見てください。コオロギは名前の由来になるほど顔に特徴がある虫です。なかなかユニークな顔立ちだとは思いませんか。今回はコオロギに注目しましたが、他の虫も意外と可愛らしい顔・とぼけたような顔をしているものもあります。公園などで虫とりをした際は是非、虫とにらめっこをしてみてください。虫に愛着がわいてくるかもしれませんよ。（石川）



## ★獅子唐辛子(ししとう)なぜ辛い?★

口に入れた瞬間に「辛いっ！」辛いししとうに当たったことはありませんか？ししとうはもとをたどれば唐辛子です。こう思えば辛いものがあってもおかしくないと思いませんか。実はこの辛さは、栽培環境が影響しています。乾燥や高温、水不足などのストレスを受けて育つと、“辛味成分”が生成されます。形がいびつなものや小ぶりなもの、中に種が全くないものは、辛味が強いことがあるそうです。とはいえ、疲労回復には効果てきめんなししとうを食べて残暑を乗り越えましょう！（塚原）



## ◎十月の注目ポイント◎

食堂の前にヒガンバナの花が咲き、コナラやクヌギ、シラカシにどんぐりが実ってきた。林床に秋の味覚のキノコも顔を出し始めた。

食堂の横にある池に数種類のトンボが訪れる。コシアキトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、カトリヤンマ、ハグロトンボ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、ミヤマアカネ、ナツアカネ、アキアカネ、ウスバキトンボ、ネキトンボ、他にイトトンボ類などである。このトンボの中で特に目立つのがネキトンボ。羽の付根がオレンジ色をしていて、秋になると特に雄は全体が真っ赤になり交尾連結して飛翔する姿が見られる。よく見ると、夏の間アオコの発生でバスクリンのように黄緑色だった池の水も少し色あせてきて、連結したネキトンボが飛びながら産卵をしているのである。池の水質調査結果からもきれいと

(吉田)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：全スタッフ

編集：吉田文雄・石川雄馬・渡部秋人



愛川ふれあいの村で、検索★